

森林塾通信

『第6回森林塾報告 テーマ「測量、製図」 思い出させサイン、コサイン』

「台風3号、8日の朝に関東地方に上陸か」という状況で、何人かの方から塾開催可かどうかの問い合わせを受けました。信州直撃は

避けられそうでしたし、速度を上げていたこともあって午後には現場にでられるだろうという希望的観測で開催させてもらいました。多少の雨な



スコープの無い旧式のコンパスを覗く池田さん



帽子のひさしを後に回し格好はきまっている宇津さん



右手で水平調整、左で上下基本に忠実本城さん



神田さんは製図台持参、さすが一級建築士

ら測量は出来ずし。ただ問い合わせに対しては、特に関東方面の方には「あえて無理をなさらずに」という提案をしました。どこかでまた測量の機会を作りたいと考えています。今年も猛者揃いで台風上陸をもともせずにくれませんでした。実際には、現場でほとんど風雨にたたられることもなくデータを採ることが出来ました。どなたが女神なのでしょう。あるいは今回来られなかった方が雨男、雨女か。さて台風をもともせずに来ていただいた方、「楽しかったのは午前中の測量まで

で、コンパスを覗いているときにはそこそこで笑い声も聞こえていたのに、午後お腹もいっぱいになり、早起きのせいもあり暇がたまる。分度器やスケールの小さな目盛りを讀んで点を結ぶのがだんだんと苦行になってきた。中学以来の分度器、高校で捨ててきてしまったサイン、コサイン。しかも4時に終了した後、それ程簡単そうではない宿題を出されてしまった。これは何年ぶりだろう。パソコンを使えばもっと早くできそ

うな気がするのにわざわざ手でやるなんて。ああもういやだ、ブチン。」状態に陥った方もいたのではないだろうか。ともかく一度手作業でのやり方を覚えておくこと以後の応用も利くというものです。慣れてしまえばそれ程苦行でもない、楽しい作業です。森林塾でもたまには指先や手や頭を使います。ご自分の家の敷地などを測量してみませんか。



悪条件の製図風景



「誤差はでるのがあたりまえです」

今回の内容

第6回 7月8日(土) 測量、製図

8時30分 鳥崎先生の山小屋に集合 あいさつの後、測量についての説明、機器の使い方等。

10時10分 6班に分かれ、小屋横の平地林(段丘の部分)にて測量にはいる。測

点は20点、東側に入った1、2、3班はうっそうとしたマツ林が一部にあり、

スコープのない旧式コンパスでポールを見通すのに苦労していました。

12時30分 現場でのデータ取りが終了。雨も気になるほどではなく助かりました。昼食。

1時15分 製図開始 そば打ち台やコンパスが製図台に早変わりし、いつ以來だろう、三角関数を用いて分度器で測って、あ

あうざつ

たい、宇津さん切れかかる。

3時30分 この過酷な条件で1%以内の誤差に仕上げた方がた

ました。これは立派。



利き目が左目で木がじゃま
山口さん

誤差修正も終わって閉じた図形が出来ました。この製図は正解あるいは真実というものが有るような無いような、結局多数決で似たようなものを描いた人がたくさんいればそれが正解に近いというもの。さて肝心の面積計算、島崎先生の説明。三斜法での面積計算が宿題になりました。是非やってみて下さい。またご自分の家の敷地を測りたいとか、山林を測ってみたいとかいう方にはコンパス等貸し出しますのので一声かけて下さい。

4時 終了。
参加者/池田さん、稲垣(久)さん、稲垣(裕)さん、宇津



縄文さんの製図



ポールマンの奥さんにいる
いる注文をつける鈴木さん

さん、太田さん、岡田さん、小沢さん、河尻さん、神田さん、佐藤さん、鈴木さん夫妻、田中さん、中村さん、芳賀さん、松下さん、森さん、山口さん、一瀬さん、鈴木さん、藤本さん、本城さん、村谷さん、講師/保科先生、島崎先生、スツフ/石原、川島、後藤、佐藤、中村、野口、藤原、宮崎、坪木、前田、早川

次回以降の予定
第7回 7月22日(土)
間伐

森林調査(測樹)の後、間伐に入ります。測樹の復習をしっかりとっておいて下さい。マイチェンソーをお持ちの方はインストラクターの指示で、使ってもらって構いません。



三斜法による面積算出が宿題です



手持ち無沙汰のポールマン
太田さん

夕方から会費制で暑気払い会になります。普段じっくりと話をする機会が少ないので、一杯飲みながら山の話を楽しみましょう。ふるってご参加下さい。雑魚寝ですが宿泊可。あればシュラフを。

Bコース夏の部
7月27日(木)〜7月29日(土)

測樹、間伐を中心に行います。参加される方は島崎洋路先生の『山造り承ります』(川辺書林026-225-1561) (600円+税)の四章「測樹・測量、密度の基準は高さの20%、保残木マーク法による間伐の手順」あたりをよく読んで予習しておいて下さい。

第8回 8月26日(土)
伐出

おもに集材(いわゆる出しといわれる作業)を行いたいと思います。
場所等未定



コンパスの十字がなかなか見つからなかった森さん



森林塾へは車で約一時間の諏訪から参加させて頂いた。この地は周囲の山々が身近にある小盆地で諏訪湖を中心にした小都市が並び、里山に続く八ヶ岳あり、そして中央アルプスの峰々を望める好位置にある。生まれてから諏訪地帯ばかりで暮らしてきた私はまさに「井の中の蛙大海を知らず」そのもので、近頃は心まで視野狭窄症が進むよう不甲斐ない。

長野県に多い唐松は、今こうして山林を学ぶなかでその匂いが少年期を懐かしく思い出させる。私の通った小学校ではストープに薪を使うことから秋になると市有林から唐松を切つて引き出す。六年生は山に入り、一人ずつ先生が打った木廻しに縄をつけて、数キロの径を引き下ろし学校に運んだ。四、五年生は二叉に組んだ台に乗せて鋸で短尺に切る。薪割り先生がして校舎の軒に積んで冬支度をした。



唐松の思い出は今も
中村 輝夫

こうした作業は何度もあって空腹ながらも皆よく頑張った。当時は戦争の最中で物資は配給制で常に不足していたから多くの家も燃料を木や炭に頼り、競って山に入った。枯れ枝集めが盛んで林の中は掃除したようになり、次第に奥へ向かうようになった。また下枝を払い落として集めた。山道の所々に伐り出された丸太積みを見て、山持ちが羨ましく、その家の豊かさが子供心に感じていた。

戦後はチェンソーの爆音があちこちから聞こえたが、休日度一人で薪取りに出かけた。親父と同行時は心強さもあって背負子(ショイコ)に高く積んで背負った。カッコーの声を聞きながら林を抜けて一休み汗を拭く、その汗と背中唐松や松の匂いが染みて、心と香りが忘れられない。

十四才の夏までに両親次々の病死で生活の重みは子供ら

に移る中で、山の幸を足したり、我流でバラ炭焼きもした。林の中に掘り鉢状の穴を見つけて、そこに灌木や松や唐松の生枝を積んで焼き、その日のうちに背負い降りた。消火処置もそこそこな背中の炭が途中で火気付いて大慌ての日もあった。とにかく降雪の前に燃料を軒下に積むことで安心した。

唐松の芽吹きは格別に美しく、芽吹きが進み具合で山菜の採り頃が判る。秋は黄に色付き始めてから落葉まで恵み豊かな実りを採りに出かける頃合いを覚えてくれた。当時の暮らしの中で唐松の小丸太は何かと使い途が多くて馴染み深いものであった。

昭和20年終戦の日まで学徒動員による軍需工場に通った。無給で過酷な労働が続き、山に向かう気力を失った。心身の成長期に物資不足が続く特食に食糧物が少々で、いつも空腹であったが家のことも工場の仕事も驚く程よく働いた。少年の心は純真素朴そのもので、国のために戦いに勝つためという教育を信じて疑わず、学問を放つて夢中で働いていたあの頃の自分が何故か崇高に思えてならない。

戦乱で乱れた世相に明るさを取り戻す「りんごの歌」が流れたが就職難だった。職種を選択もままならず、試験を

バスできて職に就けたことを
良しとした。

以来49年間のサラリーマン
(電力会社とその関連事業に
勤務)生活に終わりを告げ
た。長かった電気の「電」の
字からの解放で新聞を半日も
かけて読むゆとりが出た。

「山眠る 雲を冠りて また
眠る」こんな名句を見つけて
作意を想像した。遠目に見る
春の山であろうか、懐が大き
くどっしりと、なだらからで雄
大な王様よ……。

老大にでも入ろうかと考え
中に仕事を打ち込まれ断りき
れず、コージェネプラント建
設に関わる羽目になり、再び
「電」に拘束された。プラント
を立ち上げ営業運転開始を見
届けてそこを辞去した。もし
竹炭を作る家を探して見学
したあと当森林塾に入れてい
ただいた。

さて4回の教科を経て、「山
造り承ります」の第一章を改
めて精読することにして、要
所にアンダーラインを引いて
いった。しかしどこも重要で
結果は全体がそうなるので引
くことは止めた。それ故に充
実した内容であり、先生の真
正面から取り組む熱意、積年
の想いが伝わってくる。お聞
きしたいと思う事柄も読み進
めばちゃんと記されており納
得する。

体的に提唱されておられるこ
とは実行の可能を意味し、国
土森林危機打開に向けた貴重
な指針として読ませていただ
いた。

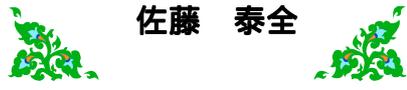
年齢69にして入塾とは随分と
変わり者の上に心身の劣化後
退が進む中で、己に何ができ
るか？

何をしようとするか？答え
はカリキュラム(15回)の終
わる頃かも……。

リレー通信

「縄文の風にふかれて」

佐藤 泰全



小生、愛知県の知多半島は
常滑から参加しています。こ
の森林塾に参加させて頂くよ
うになって早2ヶ月余になり
ましたが、想像以上に刺激が
あり、皆さんにお逢いできる
のが待ち遠しく、早朝移動の
道程も心躍る時間であり、中
央道を欠かさず上る為のス
ケジュールの調整に苦しんで
います。小生の森林塾との出
会いも皆さんと同様、農文協
の本とNHKのテレビ放映で
す。島崎先生、保科先生、早
川さんらスタッフの「小汚い



違ったジャンルに
どんどん引き込ま
れて行きました。
現在進行形の小生
の行動範囲は
鳥骨鶏、名古屋
コーチン等の飼
育、繁殖
日本オースト
リツチ協議会中部
支部会員
美浜町炭焼きク
ラブ世話役

「時代」の精神を持ち、「人間の
生活の本質」を取り戻すべき
であると気付いたのです。
知らず知らずの行動とは云
え、それは妙に心地よく、あ
たかも古代の清冽な「縄文の
風」に吹かれていたような安
らぎを覚えていたのにも頷け
ます。「おまえの云っている
ことがよく分からない！」こ
もつとも 以下小生に振り
回されてウンザリぎみの家内
との会話でご理解下さい。

「酒も飲めん人がよー云つ
とりゃーす。私の百薬の長は
強くないときかんだがね」
「だ、だで母ちゃん達が喜
んで飲める健康に良い酒を
造つとるだがね。それに地飼
い鳥骨鶏の卵は買えば高いだ
し、ホント可愛いし、今度漬
してあげるで一回食べてみ
りゃー 鳥骨鶏も名古屋コー
チンもホント旨いんだなあ。
まだ飼つてないけど、何たつ
てダチヨウはヘルシーで高蛋
白で、刺身はあんたも旨いと
云うとつたがね！実家の年寄
り達には最高だて！ほいで家
中竹炭を置いて具合も良い
し、みんなは、ゲートボール
より健康に良いと、一生懸命
炭焼いとるし、あんたの釜は
具合良いって誉めてくれる
で、この前ドラム缶で立派な
移動式の風呂と薪ストーブま
で作つてあげたら、そりゃー
喜んでくれたがね。」
「はいはい。あんたは暇で良
いね」

奮闘ぶり」を見て、そこから
伝わる爽やかな笑顔に感動
し、ひよっとしたら小生の心
の中で、もやもやとしている
探し物が見つかるかもしれな
い？と次の日に、本に書かれ
ていた森林塾に「参加したい
けど、どうしたらいいの
か？」とFAXを入れていま
した。(その返事がなかなか
届かず随分心配しましたが)
小生も昭和24年にこの世に
生を受け「不惑の歳」を迎え
ましたが、どうも小生の場合
は5年ほど前にその刻を迎え
たように思われます。仕事に
追われ、その寸暇に海で遊
び、山で憩う事を貪欲に求め
動き回っていましたが、身体
に残る疲れと共に、心にも疲
れが残るようになってきたの
です。そんな時仕事の先輩か
ら定年後の困惑を聞くにつ
れ、自分はどうなんだろうと
考え始めたら、今までは

そして森林塾塾生……主
なものはこの位ですが
(ドヒヤァー！今 自分でも
笑っちゃいました)
これらの一つ一つは、そん
なに深く考えずに行動してい
ましたが、先日美浜町の役人
さんと「ミカン山の再開発」
の話をしていて、今までの行
動が全て一つの構想に結実し
たのです。つまり「人間とし
て本来の生活は覚ありなん」
と言つ「不惑の歳」を迎えた
小生の探し求めていた物が、
此処に有ったのかと気付いま
した。其れはあたかも「縄文

「なに云つとりゃあす、あ
んたは最初だけで、後はみん
な私に押しつけとるがね」
「そりゃあ役割分担と云う
ことだがねえ。結構気に入っ
て今じゃあ 俺よりもよっぽ
ど旨いがね」
「私の料理の天分を知つと
るでしよつ、見とりゃー、あ
んたの不味いビールより私の
方がきつと旨いもん作るわそ
れに私、焼酎の方が好きだも
んで」
「焼酎はあかん！神世の時
代から百薬の長としての酒
は、発酵酒に決まつとる。焼



炭焼き釜



自家繁殖をしている烏骨鶏と名古屋コーチンの雛

「……? ほんで今度のミカン山は、会員制にしてレモンとかザク口とか、温室も作ってパッションフルーツも良いがね!そこ山羊やダチョウや鳥たちを放してやれば草も喰ってくれるし、蕎麦や大豆も有機、無農薬で作って、いろんな手作り品を皆で素材から育てて、母ちゃんが教えてやればいいし、炭焼きも出来るし、穴窯造って母ちゃんの陶器も焼き締めを楽しめるし、ちよっと泊まれるログを自分たちで作り、竹でも小屋作れると思うし、たまには子供達に解放して食べて貰ったりしたらみんな喜んでくれると思う。そしたらもつというんな事も、年寄りの知恵を活かしたら出来るて。」



親が野犬に襲われ巣を放棄、孵卵器で孵った雛の雛

「辛い事はばかり!親がしっかり子育てしてらんで、責められる子供達が可愛そうやわ!」「そうじゃ、みんな俺達は、自分の家族の生活を世間体並に維持向上させていく為に、そりゃあ一生懸命働いてきた。いやな仕事も我慢してきたがね。そんで家に帰るとくたびれて何もする気がせんてー。ほいで母ちゃんにくだくだ言われて、よけい腹が立ち、どならんでもいいのに喧嘩もしたかね。きつと子供はそんな親を見て、グータラにくせに、ちまちましてみつもねー親だと毛嫌いしてたと思っけど、面と向かって文句を言われると、俺達はこうして良いかわからず、家におるんが煩わしくなって、仕事だー!とかいって逃げてしまつていたんだな。その付けが、今の子供達をわやにしちやつたんだとは思っよ。心も身体も地球その物もなー。」

「あれまー、言い訳しよる。そんなけよう分かってりゃーすのに、ホント男は勝手だわ!」と次男礼音と三男具一具一の頭をなでる
「うおほん!せ、せめてこの先孫達が、俺達の子供と同じような思いをせんように、こつこつゆつたりとした場所に皆を連れてきて、俺達も、ホントはこんな事がして暮らしたかったのじゃないだかね?と見せてやれば、きつと間違いに気づき、解つてくれるんじゃないだろか?子供達もたまにはこんな所で天然の地球の精気に触れ一緒に汗を流せたら、孫達のことを上手に育ててくれると思っんや。そうしたら俺達が作つてしまつた間違つた地球が、少しは良くなつていくんじゃないやるか?な 解かつてくれるじゃろう」と一生懸命、家の美しくも逞しい神さんに頭を下げる小生であった。
小生の本職は、プラント建設業のエンジニアです。(これを知らない人が実はいっぱいです)小さな会社の事業所長と云うサラリーマンですが、自分の職場の裏で烏骨鶏や名古屋コーチンを飼い、孵卵器で繁殖をさせて地域の人に分けて喜んでいきます。またその事業所がある美浜町で、老人の方々の炭焼きクラブの設立にも関わり、竹炭焼きの窯まで作つてしまつていような

「本業から外れたことばっかりやつているダメ社員」ですが、それなりに本業も頑張つて、一人息子が卒業するまで(後5年位)は我慢だと心得ています。
この塾に参加させていたいただき、これほど大勢の皆さんが、少なからず小生と同じような心根でお集まりだと知り、嬉しくて、嬉しくて、一気に心の微睡みが消え、この様な結論を導き出せることが出来ました。
小生勝手に、先生、スタッフの方々には云うに及ばず、皆さんにもいつかはお世話になりたいと思つていまして、未永くお付き合ひして下さい。合掌
コラム
次回は間伐 怪我に気を付けたいですね。そこでもう若くないと思つている皆様へ朗報。中高年の怪我を防ぐには身体の柔軟性が大事だそうで、嬉しいことに、柔軟性は今からでもつけることが出来ます。私は若い頃からめっちゃくちや身体が硬くて、フィットネスクラブで、肘を床につけて少しづつ手を前に〜と「か言われても」できるわけないじゃん」と憚然としていたのですが、毎日少しずつ無理しない程度に曲げていたら、一年経たないうちに肘がついたのです!世界が変わつたと

言つても過言ではありませぬ。さあ、今日から皆さんも柔軟を始めませんか?TVを見ながらでも出来ますよ。呼吸は止めないように。ちなみに某スタッフのように、たま〜に腕立てをガシガシやつても効果なし。毎日の積み重ねが大事。(OLIVE三輪)
立ち寄り情報
高遠のティールーム
「木のすず」
(0265-94-4021)
杖突峠利用の方にお奨めです。塾の後ここでケーキを食べ、さくら湯に入つてから帰るといのは如何?店内のテーブルや棚はMr鈴木が作ったもの、家具のシヨウルームを兼ねています。Ms鈴木が作るケーキはスコーンの他、日替わりで2、3種類。素材はもちろんだわっています。飲み物は紅茶とリンゴジュース、禁煙。春は高遠の桜を背景に、冬は薪ストーブにあたりながらのんびり寛げます。10時〜18時、日月が休みです。行き方など詳細はじよんのび藤原まで。(OLIVE三輪)
おわりに
今までに何種類かの果実酒を作ってきたのですがやはり究極の果実酒は梅酒ではないかと思ひ始めています。今年も先週大梅6kgを7升の焼酎に漬けました。へたを取るの大変でしたが、なに、あの一

杯のことを思えば苦ではない。できたら少しお裾分けします。いつできるかって?来年の今頃です。
塾生で駒ヶ根市在住の写真家・宇津孝が7月10日に写真集を出版しました。
イルカノ海 巨樹の森
出版社: TBSブリタニカ
定価2400円(税別)
伊豆七島の御蔵島を舞台として、海から森、森から海へのつながりをテーマとした写真集です。
常緑広葉樹の極相林の写真をたくさん載せていますので、ぜひご覧下さい。
よろしくお願ひいたします。
宇津 孝
イルカノ海 巨樹の森
投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。
TEL 0265-70-7065
FAX 0265-70-7994
E-mail: ki-hayakawa@koanet.co.jp mi-tsuboki@koanet.co.jp
携帯:0902-53-26375 (開催日)